



都市景観を研^みぐ

九州産業大学教授 中村善一

都市景観を研^みぐ

景観とは、その都市の本質を映し出す鏡である

チグリス川とユーフラテス川が合流するところにエル・クルナという町がある。アダムとイブが食べたというリンゴの木が河畔の小さな公園の一角にあった。この町から1時間ほどジープに揺られていくと巨大な葦の湿地草原・マーシユランドがある。その面積は東京都を超える広さはあるという。そこには数かきりない鳥があつて、今も多くの人が生活している。葦でつくつたアーチ型の家である。文明発祥のシュメール時代の文献そのままの住居である。無限に広がる葦原の水郷は3,000年以上も集落としての機能が生き続けている。その神秘的な景観は忘れることはできない。

人は村をつくり、都市に集まり自然環境や生物と深くかかわりながら、人間環境特有の雰囲気やたたずまいを生みだしていった。山岳や丘陵や森林、河川、湖沼、海洋などの自然環境にはたつきかけて、建物や道路や広場や橋梁や港湾などの人文的環境を複合させて都市としての環境をつくりだしていった。

自然と人為が結合してつくられた町々が、都市機能の形成と同時に、いかに美意識を傾注して建築や広場や彫刻を計画していったかは歴史的都市から学ぶことができる。自然は神が与えた神聖なものであり、そこに手を加えて町をつくる時には、多くの人の英知を結集してすぐれた機能や形態を創出しなければ

ばならないという並々な配慮があつたと思われる。自然の秩序を尊重し、人工を加えることによつて新たな意味と美しい景観が形成されるように、自然の美しさを助長するようなものをつくりたいという、都市づくりの謙虚で厳しい態度が自ら備わつていたのであろうか。イランのペルセポリス、ヨルダンのペトラ、シリアのバルミラ、トルコのエフィソスなどの古代都市を訪ねて明らかである。日本でも古くから真・善・美というポリシーが多くの人々の生き方の基礎となつていて、国民の総意をあげてつくりだす建造物にはその精神が生かされていたのではなからうか。それではなければアテネやローマや奈良のような都市景観はつくりだせなかつたのではなからうか。権力や経済の欲に振り回されて強引につくられた町は亡びていった。

人がより良く生きるために都市はあると思う。都市には多くの願いが込められている。生活を営み、働き、学び、憩い、夢を満たす場所として……。たくさんの方が集まり、さまざまな活動を展開し、自然や歴史と深くかかわり合いながら、そこで人生を過ごすのは、やはり都市がそのための最適環境と思うからであらう。そこには驚くほどの機能や情報や価値が集積され、多くの魅力と可能性が埋蔵されているよう期待されているからである。都市は日々生成発展し、部分的には衰退もし、その推移の状況はありのままに環境に彫琢される。都市の景観とはこのようにして形成される都市の環境の見え方であり、目に映る環境のことをいう。しかし、見え方・目に映るといっても、見

中村善一（ながむら・ぜんいち）
1928年生まれ
九州産業大学芸術学部教授
専門は景観理論、環境デザイン
福岡市都市景観審議会会長

古代都市、バルミラの景観は多くのことを語りかける。





冬枯れの小枝のマスキング…思いがけない
都心の表情に、ふと立ち止まらされる。
(福岡市役所前)

ることは視覚だけに止まらないで、一瞬の視覚的映像は心や感覚を刺激し、知的反応を生起したり、さらには感動を喚起することもあり得るのである。都市景観とは単に姿・かたち・色彩・材質を見るだけでなく、そこに込められている計画・実現にかかわった人々の想い・目的・制約条件など、目には見えない都市の本質を直感的に把握することができる奥行き深い対象でもある。

都市景観を研ぐ
そこに住む市民の決断が、まちの景観をつくる

都市景観にはその都市特有の雰囲気やたまたま醸成され、そのなかから都市の現状や変化の方向を直感的に読み取ることができるといえる。たとえば第三次産業の振興を優先している都市は商業都市の景観が表出する。自然発生にゆだねている都市は雑多な様相を呈してくる。都市景観には都市の活性の度合いや重点施策までもそのままに表現される。都市景観は行政の鏡としても機能する。このことは景観形成に行政の果たすべき役割が大きいことを示している。

都市の環境を見るときに、都市を意識して見る場合と自己と周辺環境として眺めるときがある。どちらかといえば後者の

方が多いと思うが、そのときは自分自身の心理状態や精神の状態によって景観の好みが左右されるような気がする。気分に応じて無意識に景観の対象を選んでいくことがある。歩きたくなくコースがおのずから変わることがある。景観は人と場所を結ぶ大切な心の絆にもなる。視覚的に領域的に人と場所をつなぐ親密な関係を結ぶ細い糸として景観が機能する。その細い糸が、人が都市に生きる意味を生み出すことがある。

- 思わず立ち止まり、見つめたくくなる
- 何度も行きたくなる
- そこへ行けばほっとする、心が安まる
- 勇気づけられる、心が大きくなる
- 沈んでいた心が高揚する

このような「魂の救済所」みたいな役割も景観の機能としてあるのではなからうか。それは決して目的としてつくられるものではなく、何かのたまたま生まれた建造物や空間が放つ存在感から自然に発生するものである。また、一見平凡でありふれた場所や物が、空、太陽、影、間、音などと共鳴して、急に輝き人目を引きつけることもある。一本の街路樹に心を奪われることもある。路地の一角に安らぎと救いを約束するような静けさを見いだすこともある。それぞれの人にとって「決して忘れることのできない特別な場所や景観」があるのである。か。一木・一草にしても大事な役割を果たしていると思う。それは幼い子どもと同様である。景観という誰にでも理解できる言葉やメッセージによって感性が育くまれ、美意識が形成されていく。景観は人が生まれてから死ぬまで、生活のそれぞれの局面に対応してあらゆる機能を果たす全体的な人間的存在といえる。

積極的な意味では景観は市民存在の自己開示であるという見



ガウディの個性豊かな作品は
三口やヒカソやグリの個性を
再んだ。(バルセロナ)



歩く人。…歩く人の姿が美しく
景観に溶ける。
(牛嶋のワグネル自遊園ホーランド外)



方も成立する。新しくつくられる建築や空間はそれをつくる人の決断の集積として生まれる。既存の建物を解体し、新しい建物をその場所に建てるとしたら、企画、設計、予算の決定、施工から運営まですべて施主の意志で決定される。その決定に基づいて進行される過程の一切が通行する人の目にさらされる。つまり工事中の景観として誰でも見ることができるのである。施主の決断や意識の中味を景観のなかに読みとることができ、全市の的に見ればすべての地区で建築の工事が日常的に行われているので、できあがっていく建築の過程を観察することで現実を読みとることができる。

高度経済成長期以降の全国一律の都市化のなかで、機能性・合理性・経済性を優先するあまり、長い時間をかけて培われてきた地区の個性や伝統を尊重する気風が失われてきた。できれば画一的にはなく、それぞれの現場で自然環境や伝統遺産の価値を認識し、むしろゆとりやうるおいを基本に据えた個性的な近代化を景観形成の主題にすることが望ましい。新しい建築や広場は完成したその日からまち並みの一角を形成するのであるから、建物の外観は自分のものであって、同時に公共の景観として固定される。たとえ小さな建物であっても、存在性を鮮明にし、その光沢を増し、なんらかのメッセージを内蔵するところから、魂を打ちこんだまちづくりが始まるのではなからうか。個の景観形成はまちづくりの原点となる。

しかし、まち並みは個々の建物がそれぞれ外観を洗練し、魅力的にするだけでは都市景観形成としては充分でない。街路や広場や樹林や地形まで含めて、連続する建築の全体像まで考慮に入れた地区を総合した景観形成のあり方をさまざまな角度から検討し、行政や事業者や住民が一体的となって望ましい方向性を時間を充分かけてつくりあげることが望ましい。地区の将来像に沿って個々の建築がデザインを練りあげていくようになれば、自律的に個が全体をつくりあげることになる。

そのためには行政の役割が大きいと思う。地区の景観形成は住民・事業者・行政のすべてが総合的な景観形成の意味と価値と実践の手法を認識して、一体となって取り組むことが必要だからである。

都市景観を研ぐ
福岡のまちに響け、「夢の都市景観交響曲」

福岡市は全国的にも住みよいまちとして評価が高い。また、人口も年々増加し、産業の振興も顕著であり、都市基盤や交通機能の整備も進み、シーサイドもまちをはじめとする拠点整備

工事中の養生ネットと仮囲いのデザインを国際コンペに附し都市景観に深い配慮をするパリの凱旋門。(1988年)



修正にして特別 住宅地の新しいランドマークの出現。(シーサイドももち)



も着実に具体化しつつある。アジア太平洋博覧会やユニバーシアード福岡大会のイベント開催もはずみとなつて、まちづくりの活性的状況は国際的にも注目が集まっている。今、福岡市は21世紀に向けて新しい都市イメージを形成する絶好の機会を迎えているといつてよいであろう。

市では福岡市総合計画の理念と方向に基づき、都市景観の側面からみた「福岡市都市景観形成基本計画」を1988年3月に策定した。顔のあるまち、個性がいきるまち、魅力を感じるまちを目標として、福岡市全域を、①骨格空間、②基本空間、③地区空間、④単位空間に類別し、景観特性を生かした景観形成の基本方針を述べている。つまり、福岡市都市景観形成の全体像を描いたものである。行政は都市景観形成を実現していく総合センターとして位置づけられ、構想づくりや戦略的な事業の実施、景観に対する諸事業や諸要素の調整、さらに市民に対するPRや啓発をおこなうなど、多様な役割を果たしていくこととしている。この「福岡市都市景観形成基本計画」の策定は高く評価したい。福岡市は計画策定後に都市景観形成地区の検討や大規模建築物等を対象に助言・指導による誘導を實踐し、表彰や助成などをおして景観形成を促進し、その成果は少しずつあらわれつつある。

都市景観形成という営みは、経済的な効果や都市機能と直接結びつかないので、その必要性や価値の認識が市民はもろろん行政内部でも低いのが現状である。この点が、景観行政の隘路となることが多い。直接的ではないとしても、都市景観がもたらす価値や効用は、はかりしれないものがあると思う。福岡市総合計画の推進の実際は都市景観形成にストレートに表現されるのではなからうか。都市景観を研くことは都市の本質を深めることである。

都市景観は人々の心や感性にはたらきかける微妙な力をもっている。ささやかな景観が人々の記憶に残り忘れがたい心象風景をつくりあげるとしたら、都市景観の形成は創造の原理に結びつく文化的課題として重要な意味を帯びてくる。都市景観は



凱旋門からのパリの街。

さまざまな都市活動の累積によって創出されるとすれば、その累積が望ましい方向で形成されるように願う。それによって都市のイメージが決定されるからである。国際的な評価や期待にこたえるためにも、質の高い、個性的で美しい景観を具体化することが望ましい。そのために並みすぐれたデザインと実践的で情熱的な取り組みが必要である。福岡市都市景観形成の醍醐味は、市民参加の道がひらかれていること、さらにまちづくりを芸術の域まで高めることができる可能性にあると思う。パブリックアート「註1」を市内の要所に散りばめ、展開することもできるのではなからうか。私たちは既成概念を乗り越えて、明日の夢を、そして都市の精神を目に見える都市景観として具体化していきたい。個々の景観が交わり響きあい総合されて、都市という大劇場で「夢の都市景観交響曲」が上演されることを期待したい。指揮者は市長、演奏は市民である。作曲は？どんな曲にするのか、それを考え、討議する場として、都市景観情報誌「彩都」がすぐれた機能を発揮するに違いない。

(撮影)中村善一



二キ・ド・サンファールの彫刻噴水。パブリックアートの先駆けとなった。(パリ)

【註1】パブリックアートは誰もが自由に行き交うことができる公共的空間に創造的に構成された、あるいは公共的空間を表現した芸術作品で、その空間を豊かにし人々の心を広げ、生活に喜びをもたらすものをいう。